

令和4年第5回定例公安委員会会議録

開催日時 令和4年2月17日(木)午後0時30分～午後3時35分

開催場所 警察本部各執務室、西部地区運転免許センター聴聞室(リモート)

第1 定例会議

1 開催時間 午後1時30分～午後2時30分

2 出席者

公安委員会 勝部委員長 久本委員 衣笠委員

警察本部 服部警察本部長 川島警務部長 岡山首席監察官
前田生活安全部長 谷村刑事部長 柴田交通部長
加藤警備部長 青木警察学校長 濱口情報通信部長
水谷警務部参事官

(事務局等～山脇公安委員会補佐室長、総務課員)

3 議題事項

- 個人情報開示請求に係る審査請求の裁決(警務部)
- 個人情報開示請求に係る審査請求の裁決(警務部)
- 運転免許取消し処分に係る審査請求の裁決(警務部)
- 「令和3年政策評価報告書」及び「令和4年推進・評価計画書」の策定(警務部)

(1) 個人情報開示請求に係る審査請求の裁決(警務部)

警察本部から、個人情報開示請求に係る審査請求について、本件請求を棄却する旨の裁決案の説明がなされた。

委員

これまでの経過報告や裁決案について事前に説明を受けており、この内容で決裁する。

委員

鳥取県個人情報保護審議会の答申を踏まえた内容であり、案のとおりで良い。

(2) 個人情報開示請求に係る審査請求の裁決（警務部）

警察本部から、個人情報開示請求に係る審査請求について、本件請求を棄却する旨の裁決案の説明がなされた。

委員

鳥取県個人情報保護審議会の答申や裁決案について事前に説明を受けており、案のとおりで良い。

(3) 運転免許取消し処分に係る審査請求の裁決（警務部）

警察本部から、運転免許取消し処分に係る審査請求について、本件請求を棄却する旨の裁決案の説明がなされた。

委員

審理結果の報告を受けており、案のとおり進めていただきたい。

委員

本件に限らず、これまでの運転免許に係る審査請求をみると、行政処分と刑事処分の違いなど、一般の方からすれば複雑な内容かもしれない。

本件については、適正に対応されたものであるので、このとおりで良い。

(4) 「令和3年政策評価報告書」及び「令和4年推進・評価計画書」の策定（警務部）

警察本部

本県警察における政策評価は、県民の視点に立った効率的かつ効果的な警察活動を推進し、その結果を公表して県民の理解を得ることを目的として平成17年から毎年実施している。

政策評価の項目は、県警察の重点目標に沿って設けている。

令和3年政策評価報告書の概要について、「総合的な犯罪抑止対策の推進」では、令和3年の刑法犯認知件数は1,923件と、前年より増加したものの、令和2年から引き続き2,000件以下を達成した。「重要犯罪等の検挙と組織犯罪対策の推進」では、殺人事件、強盗殺人未遂事件、強制性交等事件等の重要犯罪事件を検挙したほか、六代目山口組と神戸山口組の対立抗争に伴う特定抗争指定暴力団等の指定期限の延長等の措置を講じた。「交通死亡事故抑止に資する総

合対策の推進」では、交通事故死者数は19人と、前年より2人増加したものの、交通事故件数及び負傷者数ともに平成17年以降17年連続で減少した。「テロの未然防止と緊急事態対策の推進」では、国際テロの未然防止等に向けた各種対策を推進したほか、大規模災害の発生を想定した機能移転訓練を実施した。「警察活動基盤の充実強化」では、コロナ禍における採用募集活動、各種広報媒体等を効果的に活用した県警察の魅力の情報発信、男性職員の育児休業の取得促進等の取組を推進した。

これらの内容を中心に、令和3年の成果を踏まえた政策評価報告書を取りまとめ、令和4年の計画書を作成した。今後、県警察のホームページに概要を掲載するほか、各警察施設の窓口に備え付けて公表し、県民からの意見、要望等を受け付ける。

委員

事前に詳細な説明を受けたが、各項目に沿って細かい点まで策定してあるので、この内容で進めていただきたい。

警察が対応すべき事案や県民から求められることは年々多様化していくと思うが、引き続き県民の期待にこたえるべく、頑張っていたいただきたい。

委員

今後の課題への対応が重要なので、計画書に基づき、具体的な施策を行っていただきたい。

交通死亡事故については、1件でも少なくなるよう、効果的な対策を講じていただきたい。

委員

昨年は、県民からの意見はあったか。

警察本部

なかった。

4 報告事項

○令和3年中の遺失、拾得物の取扱状況（警務部）

○令和3年度留置施設巡察の実施結果（警務部）

(1) 令和3年中の遺失、拾得物の取扱状況（警務部）

警察本部

令和3年中の遺失物届出状況は、現金が約1億995万円であり、昨年より約217万円、率にして2パーセント増加した。物品は1万6,218点であり、昨年より694点、率にして4.1パーセント減少した。月別では、現金の届出は7月が最多であった。物品の届出は、4月と11月を除き、前年より少なかった。

拾得物届出状況は、現金が約6,396万円であり、昨年よりも約677万円、率にして11.8パーセント増加した。物品は約3万9,079点と、昨年より5,156点、率にして11.7パーセント減少した。月別では、現金の届出が4月、7月及び10月に前年よりも200万円以上多かった。物品の届出は、4月、5月及び11月を除き、前年よりも少なかった。

拾得物の内訳の上位3分類は、生活用品類、証明書類・カード類、衣類・履物類の順であった。現金の返還状況は、遺失者への返還が66.9パーセントである一方、物品の返還状況は、県への帰属が51.2パーセントと最も多く、遺失者への返還は17.7パーセントであった。これは、現金の場合、証明書類等と一緒に拾得されることが多く、遺失者を特定しやすいが、生活用品等は記名がなく遺失者を特定しにくいことや、遺失届出も少ないことが一因だと考えている。

拾得金額の最高額は約119万円であり、遺失者に返還済みである。

委員

取扱い件数が多いが、引き続き、適切な取扱いと丁寧な保管を行っていただきたい。

(2) 令和3年度留置施設巡察の実施結果（警務部）

警察本部

令和3年12月8日及び9日、中国四国管区警察局による留置施設巡察が実施された。対象は、浜村警察署及び米子警察署であった。

検証項目は、「留置施設の管理運営に関すること」及び「被留置者の処遇に関すること」であった。

実施の結果、教養状況などの良好点もあったが、改善点については、県下全警察署の状況等も調査し、措置を講ずる。

委員

より良い業務を行うために、適切に改善策を講じていただきたい。

委員

留置管理業務は地道な教養が必要だと思うので、引き続き、効果的な教養を実施していただきたい。

委員

良好点についても全署で共有し、業務に活かしていただきたい。

警察本部

これまでも適宜共有しており、被留置者の処遇の斉一を図るため、今後も各警察署への指導等を行う。

5 その他

令和3年度サイバーセキュリティコンテスト（決勝）への出場結果（生活安全部）

警察本部

このコンテストは、「サイバー空間の脅威に関する捜査活動に必要な高度で専門的な知識・技能の修得を推進し、警察組織を挙げてサイバー空間の脅威への対処に係る人的基盤の強化を図ること」を目的として、毎年、警察庁が主催しており、3人1組のチーム戦で解析技術などを競う。

本県チームは、昨年11月に開催された予選大会を通過し、本年2月15日にオンライン方式により開催された決勝戦において、7位の成績を収めた。

なお、本日は、本県においてサイバーセキュリティ競技大会を初開催し、各警察署の代表者が、実務に沿ったログ解析などを競い、黒坂警察署が優勝した。今後も、県警察全体の技能向上を図っていく。

委員

本県は小規模県だが、全国上位の成績を収めており、サイバー犯罪対策の技術は高いと思う。引き続き、レベルアップを図っていただきたい。

本日の大会を視察したが、今後は、ますますサイバー犯罪の担当者以外の職員も知識や技能が求められると思うので、全体の底上げを行っていただきたい。

委員

以前、ログ解析のデモンストレーションを見たが、専門性も必要だと思った。職員の底上げについて、サイバー専門の職員の採用状況はどうか。

警察本部

これまでも数名のサイバー捜査官の採用を行っている。引き続き、サイバー捜査官の採用募集を行うとともに、全職員に対する教養を継続し、レベル向上を図りたい。

第2 その他の公安委員会活動

1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取5件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 聴聞

運転免許課から、道路交通法に基づく聴聞1件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

3 事前説明

令和3年度留置施設巡察の実施結果

4 報告事項

- ・ 審査請求審理結果
- ・ 暴力団排除活動関係

5 決裁

- ・ 個人情報開示請求に係る審査請求の裁決2件
- ・ 運転免許取消し処分に係る審査請求の裁決
- ・ 公文書開示請求
- ・ 「令和3年政策評価報告書」及び「令和4年推進・評価計画書」の策定
- ・ 鳥取県警察の組織に関する規則の一部を改正する規則
- ・ 行政処分関係（生活安全企画課）
- ・ 少年指導委員の委嘱

6 公安委員会委員間の事前検討・協議等

7 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。